

## 2021年度短期大学教育改革 ICT 戦略会議開催結果の概要

1. 開催日：令和3年9月9日(木)、オンラインによるテレビ会議
2. 参加者・発表者等：54名(一般40名：7短期大学、2大学、発表者等14名：6短期大学、4大学、2自治体、1民間団体)
3. テーマ：「短期大学生による地域貢献活動を考える」
4. 開催趣旨

教育研究を通じて短期大学と自治体等が協働する地域貢献支援活動の効果的な在り方を探求するため、私立の参加短期大学間で試行している支援事業の取組みを踏まえ、支援事業のニーズ及び教育効果、運営上の課題を共有し、推進の可能性等について協議するとともに、遠隔授業の体験を振り返り、学生の満足度を高める教育の工夫・改善について、理解の促進を目指した。

### 5. 話題提供及びコンソーシアム活動報告で理解が進んだ主な点

- ① 武庫川女子大学の話題提供「遠隔授業の調査結果から：教育の質向上を目指した短期大学教育のDX化の取組」では、2020年8月の調査によると、遠隔授業で必要とされる支援は、課題の増加を受けて「レポートの書き方」の説明が65%、学生が受けやすい授業形態は、時間と場所の制約がなく繰り返し学習ができる「オンデマンド型授業」48.5%、「対面授業」32.7%、ライブ配信型授業10.8%などであった。

コロナ禍による新たな課題としては、新学部学科の開設による短期大学から大学へのシフトの加速、大学での地域連携強化による短期大学教育の特色が目立たなくなることなどにより、短期大学離れが進むという大きな問題がある。また、コロナが長引いており、地域や学生同士のコミュニケーションを如何に確保すべきかに苦慮しているが、ますますICTによるDX化を進めなければいけない。特に、2021年度よりeラーニングシステムを利用したオンデマンドによる「データサイエンス・AI教育」の全学必修科目を開始した。

今後の展望としては、遠隔授業による入学前・入学後のリメディアル教育の充実、教育の質を担保した遠隔教育の活用、遠隔手法を活かした正課外教育の充実、DXを促進するために縦割りから横断型の組織への再構築を目指した準備を進めている。

- ② コンソーシアム活動報告1の「高齢者支援事業を目指した、ICTによる世代を超えた交流活動の試行」では、実践女子大学短期大学部と山野美容芸術短期大学が連携して2020年度前期・後期、2021年度前期に学生同士、高齢者を含む異世代者との交流を昼休み15分～20分間を利用して、数名に分かれZoomのブレイクアウトルームで試行した。2020年度は学生、異世代で聞きたいことを出し合うことの難しさ、機器の操作に不慣れた異世代者へのサポート体制の確保が課題となった。この経験を踏まえ、2021年度前期では、シニア向けに生涯学習の機会を提供する民間団体(BABA lab)の協力を得て、3回に亘り学生2名～3名に異世代者1名～3名が参加し、15のルームに分かれて交流を試行した。2021年度前期の課題としては、プレゼンや司会の事前練習の必要性を確認し、成果としては、プレゼン・コミュニケーションスキルの獲得、異世代から多くの学び・気づきを得た。例えば、コミュニケーションが苦手な学生を高齢者が励ましており、一方通行の貢献ではなく双方で得る活動になっている。これを実現していくには、一つの短期大学で完結するのではなく、複数の教育機関と異世代組織、自治体が連携することで、可能性がより一層広がっていくことを感じた。今後も大学間・異世代者間・自治体や民間団体の連携を強化し、SDGsの「パートナーシップで目標を達成しよう」の実現を目指したい。

- ③ コンソーシアム活動報告2の「地域価値発見支援事業を目指した、三重県志摩市とのパールズコレクション」とコロナ後の連携体制の展望では、大阪夕陽丘学園短期大学は志摩市と「文化・教育・学術・まちづくり等の分野の推進に関する連携協定」を行い、真珠の魅力をPRするため、キャリア創造学科の学生、教職員が参加し、志摩スペイン村でアコヤ真珠をアクセサリにしたオリジナルファッションショー、真珠製作体験、ネイル体験などを企画・演出する「パールズコレクション」を2020年2月に実施し、遠隔システムでショーの様子を大阪天神橋筋商店街にパブリックビューイングで同時中継した。2021年2月の「パールズコレクション」では、ファッションショーに加えて、SDGsの企画として再使用生地の無償提供による「シルバニアファミリー人形」の着せ替えなどの準備をしていたが、急遽、コロナ感染症の拡大による緊急事態宣言が延長され中止となった。なお、パールズコレクション以外では、志摩市市民講座において、志摩市オリジナルマスクの製作を行い、高い評価を得た。現在、2022年大阪開催のパールズコレクションに向けて学生主体の企画チームを結成し、市民講座の継続開催、地産地消のアオサ海苔の佃煮イベントのPRなどの準備を始めている。コンソーシアム連携体制の展望としては、プラットフォームの構築、海苔を入れた地産地消のイノベーションとSDGs、フレームワークとしての利用がある。

また、志摩市役所水産課の担当者からは、海水温上昇で真珠水揚げ量の減少、コロナ禍による観光客の減少等も重なり真珠業界は非常に厳しい。真珠のすばらしさを広く発信する事業を進めているが、志摩市内に短期大学や大学がなく、若い人材の視点や考えが不足している。そこで、パールズコレクションでは若い方々に英虞湾のアコヤ真珠を知っていただき、その活用方法を考えていただくことがPRの効果があると考え、大阪夕陽丘学園短期大学と連携し、若い人材やノウハウを提供いただき、事業を進めることに志摩市として非常に大きな期待をしていることの説明が行われた。

- ③-1 別府大学短期大学部食物栄養科では、2020年度に実施した地域価値発見に関する取組みとして、一つは、津久見市の地域振興のため、津久見市観光協会、地元企業などが協力し、津久見産の海産物と魚米こうじを使った発酵調味料「ととのみそ」を開発し、2021年度中に商品化までこぎつけ、津久見市の新たな地域価値として発表できるよう現在取組んでいる。二つは、大分の新聞社と協力し、郷土料理の伝承を目的とした郷土料理のレシピを動画配信した。学生が全18品のレシピを作成し、YouTube上で公開した。三つは、県下の高校と連携し、郷土料理のコンテストメニューとZoomで打ち合わせを行い、コンテストに出品して地域価値の再発見に取組み、新聞社から改めて大分県の価

値を発見できたという反応があった。今後の展望としては、学生のアイデアを生かし、県下の自治体・企業等と協力し、新しい地域価値として物品や食品などを作成することと、他地域の短期大学・大学とも交流を拡大しながら、学生同士、教員同士の情報交換でさらに新しい価値の発見に結び付けていきたい。

③—2 和泉短期大学児童福祉学科では、2020年度新型コロナウイルスに翻弄され、「子育てひろば」など地域の親子を招いての活動ができなかった。児童虐待防止運動への参加は、毎年オレンジリボン2千個作成し相模原市に届けていたが、去年は千個に減らし、街頭での配布活動も行うことができなかった。今後の展望としては、他大学の知見取り入れ、地域の課題解決に学生のアイデア活かして取組む方策を考えていきたい

④ コンソーシアム活動報告3の「地域課題取組情報共有の支援事業 Web サイトの紹介」では、私立大学における地域貢献・取組み事例として、文部科学省「令和2年度肢立大学開革総合支円事業(タイプ3)」に採択された短期大学からの抜粋で、各校のホームページから地域貢献等に関わる部分のURLを列挙し、連携する短期大学各校や地方公共団体、企業とで形成するプラットフォームで共有したいデータを簡単にアップロードして閲覧することができるようになっている。

コンソーシアムにおけるプラットフォームは、会員になった短期大学間の情報共有と、無償に必要な機能を提供している。目的は、各短期大学の地域課題の解決に向けた取組みの共有、支援事業の内容・成果、教育活動のノウハウ・評価等の掲載を通じて地域貢献支援への理解促進と推進普及に活用する。Webツールは「Google Classroom」を使用している。特徴としては、動画・音声付レポートなどを容易に登録・整理でき、登録情報は会員間の中で容易に参照できる。また、公開する情報の総量に制限がなく、登録した情報のセキュリティは確保されており、会員短期大学ではサーバなど設備の準備が不要で、一切お金がかからない。私情協ら非営利団体向けのアカウントというのが提供されており、会員になれば簡単にClassroomにアクセスすることができる。

## 6. 全体討議で理解の共有・確認が得られた主な点

① 問題提起1の「短期大学間による地域貢献支援事業のコンソーシアム活動プラットフォーム活用への課題・対応策」では、文部科学省の「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン」を参考に、地域連携プラットフォームの意義として、大学では地域貢献のニーズを知ることで、大学の活性化に繋げることを確認するとともに、コンソーシアム活動に対する課題や対応として、プラットフォームの共通目標・方向性(単位化された授業科目に取り込むなど)の確認、プラットフォームの運営体制の明確化と維持費負担の検討(共通負担経費の分担、「地域創生推進交付金」等の補助金活用、クラウドファンディングの活用)、コロナ禍での連携活動では私情協のサポートを得て、地域課題の共有と支援活動のノウハウを共有し、短期大学の教科に役立つなどが提起された。

② 問題提起2の「自治体から見た短期大学又は短期大学間との連携協力の有用性と推進方策」では、日野市は人口急減など社会が大きく変化する中で、「生活課題産業化」として現場視点で住民・企業・大学等と行政が対話を通じて社会課題の解決とイノベーションの創出に向けて取組んでおり、社会的な学びを共有する場としての「リビングラボ」で住民・企業・大学・学生も社会実証に参加している。さらに内閣府の「SDGs 未来都市」に選定され、日野の未来を創る研究プロジェクトとして地元の高校とのSDGsをテーマにした探求学習を推進したところ、リビングラボの出会いをきっかけに触発され、新たな活動を立ち上げるなど大人の姿勢に変化が生じてきている。短期大学には、より社会に近い視点、短い期間での効果的な学習という面で、SDGs、リビングラボ、ソーシャルラーニングにおいてニーズがあるので、短期大学との連携に大いに期待している。

### ③ 意見交換

③—1 地域貢献活動に対する短期大学教育としての有用性については、教育プログラムが過重のため、全員の訓練は限界があるので、希望学生を対象に課外活動の一環として一部の教職員の協力を得て、学生の興味・関心の高いテーマをとりあげ、自分ごとの問題として捉えさせ、行動につなげる仕掛けがあると思う。例えば、ネット上にインスタグラムなどの映像やデザイン等を用いた地域価値発信による地域価値の掘り起こし、高齢者の生きがいを高める体験談の紹介や若者との語り発信による高齢者の存在意義の向上などの支援ができると思う。

③—2 地域貢献支援事業の教育上の位置づけについて、単位化した授業としての実施が理想と思うが、学内での合意形成、支援体制の準備に時間がかかることと、費用負担などが生じるので、できることから取組み試行経験を積みながら、希望学生による課外活動として実施する考え方に意思表示を求めたところ、3分の2から賛同を得た。

③—3 私情協のプラットフォームで参加校の特色や特徴を把握する中で連携することについて、参加校の存在意義を高め合うプラットフォームを活用して行動を起こす考え方に意思表示を求めたところ、3分の2から賛同を得た。また、幼児教育学科の教員から、コロナの影響で地域の子供たちと繋がるのが本当にできなくなっているという課題に直面しているが、オンライン上とか、様々な方法がまだ見つけられるのではないかとということを学ばせていただいたので、学科でも様々な取組みに着手していきたいとの感想が披露された。

③—4 自治体等と連携を進める上で考えておくべき課題について、特に配慮すべきは、自分たちの幸せと社会の幸せを追求しながら問題提起し、課題解決に向けた支援事業を考えることが大事とする考え方に、意思表示を求めたところ、3分の2から減少し、4割から賛同を得た。

③—5 コンソーシアムで解決策を発信、情報共有するプラットフォームの維持管理費の負担について、自治体等の財源(地域創生推進交付金等)の活用、クラウドファンディングを中心として不足分を参加短期大学間での分担などがあるが、地域貢献支援事業の公共性に鑑み、自治体の財源を積極的に確保することが基本とする考え方に、意思表示を求めたところ、3分の2から賛同を得た。

④ 総括：大事なことは、「皆の役に立ちたい」という短期大学生の純真な心に訴えて、個人と社会全体の幸せを考えるウェルビーイングの価値観の熟成、地域価値の掘り起こしの魅力を、参加校が共有して連携を強化できればと考えており、未来を託す輝かしい人材育成に向けて、本コンソーシアムに積極的に参加いただくようお願い申し上げたい。